

心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会
会合同子どもの成育環境分科会（第24期・第6回）
議事録

日時：平成31年1月16日（水）14：00～16：00

会場：日本学術会議6階 6-A（1）（2）会議室

出席：水口，浅野（スカイプ），加野，神吉（スカイプ），木下，斎尾（記録），田中，福井，吉野，仙田

五十川（国土交通省よりオブザーバー）

・高橋秀俊氏（参考人/国立精神・神経医療研究センター）

・山中龍宏氏（説明者/緑園こどもクリニック）

配布資料

資料1 前回（第4回）議事録

資料2 前回（第5回・メール審議）議事録（案）

資料3 発達障害の子どもの成育環境（高橋氏資料）

資料4-1 「傷害予防に取り組む」日本小児科学会雑誌2016（山中氏資料）

資料4-2 提言「事故による子どもの傷害」の予防体制を構築するために2008（山中氏資料）

資料5 主催提案書・公開シンポジウム

参考1 分科会委員名簿

議事内容

1. 前回議事録案の確認（資料1、机上配布1、資料2）

- ・前回、第4回（2018.10.24）、第5回（メール審議）議事内容を確認。

2. 「医療・健康分野」についての話題提供 資料3，4-1，4-2

- 1）2）について、各氏より話題提供後、質疑がおこなわれた。

1）国立精神・医療研究センター 高橋秀俊氏より（資料3）

「発達障害の子どもの成育環境：自閉スペクトラム症の感覚過敏の問題と音環境に関する多領域からの支援を中心に」

<概要・キーワード>

- 発達障害の定義、概念は医学・教育学・心理学・社会福祉・行政等の諸分野にまたがる。
- 自閉症特性は自閉スペクトラム症の診断を有さない人にも広く認められる。
- 非定型的な感覚の特徴は6-9歳の児童期や自閉症の診断を有するもので、最も顕著とされている。
- 非定型的な感覚の特徴は、本人も周りも気づきにくいため、客観的定量的な評価も重要である。
- 感覚特性を周囲の人に正しく理解してもらい、本人の不安を軽減する取組が重要。

2）緑園こどもクリニック 山中龍宏氏より（資料4-1，4-2）

「傷害予防に取り組む -変えられるものを見つけ、変えられるものを変える-

<概要・キーワード>

- 子どもの事故は accident(予測できず、運命的なもの)ではなく、injury(予測でき、予防可能なもの：傷害)であり、予防には社会全体が取り組む必要がある。
- 傷害予防のための制御モデル：重篤な傷害の発生を制御するための理論。A：変えたいもの(目的変数)、B：変えられるもの(操作可能変数)、C：変えられないもの(操作不能な説明変数)。A B Cの間の因果関係をみつけ、Bを使ってAを制御する理論を開発する必要がある。
- 傷害予防の科学的アプローチ：無理な傷害予防 3 I's (Individual・Impossible・Instant) ではなく 3 E's (Environment・Education・Enforcement) を採用。
- 安全とは事故や危険がなくなった状態ではない。傷害に関する継続的な情報収集は大切。事故データを予防のために活用していくことが重要。

<全体総括>

- ・クラスの数%を占める発達障害児、そういう子ども達にも、やさしい学校であり、のびのび遊び育つ成育環境が重要。傷害予防に関しても、大変重要な先端的課題。
- ・2018年度は、公園、道路、教育施設・保育施設、医療・健康、の分野の話題提供により議論してきた。来年度は、住まいに関する事項をテーマに開催予定。また、提言のとりまとめでは、省庁の縦割りシステムに対して伝わるような方法も考えたい。

3. シンポジウムの企画について(資料5)

公開シンポジウム(2019.6.1)「子どもの戸外遊び消滅!?遊びへの社会的介入としての移動式遊び(プレーバス)」の開催について、概要説明。第一部・第二部・第三部承認済。

4. 次回と今後のスケジュールについて

今年度は本日の第6回で終了。次年度、改めて日程調整の上、開催予定。

以上